

## 自宅の居間にいるような感覚で

## 長時間滞在できる学修環境を整備

## The Alan Gilbert Learning Commons



既存施設と増築の境にあたるアトリウム 多くの学生が集まる

## 【ポイント】

## 居間のようにくつろぎの空間を整備

## 学生の要望を細やかに反映した学修空間

- 什器や内装、運営やカフェのメニューに至るまで学生の意見をきめ細やかに取り入れ、リラックスして学修できる環境を整備。
- いつでも自由に学修できるよう、24 時間利用可能なグループ学修スペースを 30 部屋整備。
- 学修支援として My learning essentials という学修意欲向上プログラムがあり、運営には学生スタッフも関わる。

## 長時間滞在できる居間のような空間となる工夫

- 元々宿舍の食堂だった大空間を、全体が見渡せる開放感のある学修空間にコンバージョン。
- 居間のような空間とするため、寝そべったりできるようなタイプのソファを配置。
- 学生が思い思いのスタイルで学修できるよう、可動式の様々な形状の什器を整備。（移動した什器は毎朝スタッフが定位置に戻している。）

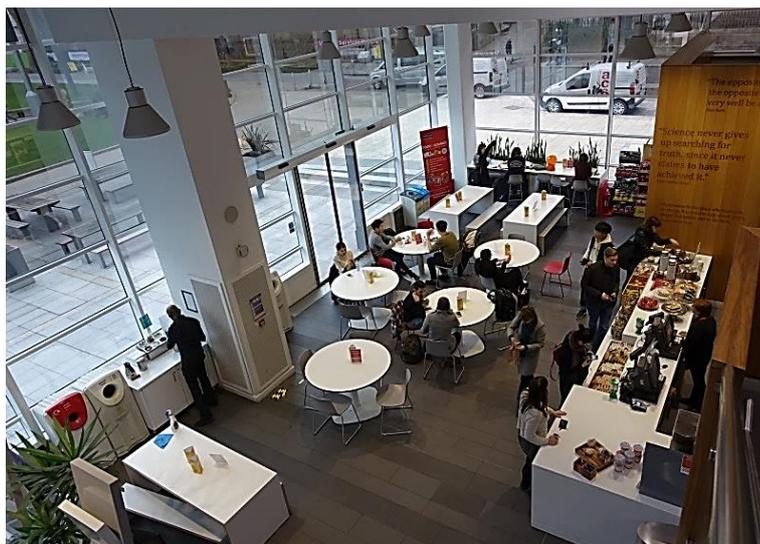


既存施設の大スパンを活かした開放的空間

## 整備による効果

### 学部生の活動拠点に

- 計画時に意図したとおり、以下のような学生ニーズに応えた設備が充実しているため学生に大変人気の高い学修スペースとなっており、長時間滞在する学生が多い。
  - 400席のPCブース
  - カフェスペースも含めたWiFi完備
  - 各階にプリントステーション（スキャナ、カラープリンタ）設置
  - Skype、電子スクリーン、ホワイトボード等を設置したグループ学修室を30部屋（2～12人用）



吹き抜けになっているカフェは地域にも開放されている

## 整備の背景・目的

- 古い学修環境からの転換を図るため、また図書館整備の一環として、学生寮食堂のあった既存施設の改修と増築により新たな図書館を整備。
- 学生代表との意見交換や、先行事例を参考に「10年先まで通用する」学修スペース整備を目指して、ICT設備を充実させ、グループ学修から個人学修まで多様な用途で使える柔軟性を持たせた計画とした。



外観 左奥が既存施設で手前が増築部分

## 更なる展開

### キャンパス統合に伴い 全学に向けた学修スペースへ

- キャンパスマスタープラン(2012-2022)において、現在分散しているキャンパスを管理本部近くの区域に統合する方針を出している。
- 学部キャンパス統合後には、より多くの学修スペースが必要になることが予想され2017年にはメインライブラリーの改修も計画されている。
- メインライブラリーの改修については、ウェブサイトにより情報公開と学生意見を求める呼びかけがなされ、The Alan Gilbert Learning Commonsの計画と同様に学生主体の計画プロセスが予定されている。